アルゼンチンにおける ERT：労働者による会社・工場回復運動
～雇い主のいない労働を求めて～

外国語学部イスパニア語学科
A0454003 藤井枝里

アルゼンチンは徹底的なネオリベラル政策を押し進めた結果、2001 年の前代未聞の経済危機に至った。そして同年 12 月 19・20 日、大規模な民衆蜂起が起こる。このとき人々は、破綻した国家に代わる新たな政治空間、経済空間を求めて立ち上がった。各地でアサンブレアと呼ばれる近隣住民の自治集会が組織された。失業者たちは道路を封鎖して政府に抗議し、家のない人々は見捨てられた建物を占拠し、紙切れ同然となった通貨の代わりには物々交換のシステムができあがった。

そうした状況の中で社会的な注目を集めた運動のひとつが、本稿で取り上げる ERT 運動である。ERT とは、スペイン語の Empresas Recuperadas por los Trabajadores の略称であり、直訳すれば「労働者によって回復された会社」となる。それは文字通り破産した会社を労働者たちが回復させる試みであり、より一般的に言えば協同組合的な生産活動である。本稿の目的は、日本ではほとんど知られていない ERT 運動を紹介するとともに、その意義を明らかにすることである。さらにその運動のプロセスに、社会を変える可能性を見出していきたい。

第一章ではまず ERT 運動の背景となった社会状況を 20 世紀以後の歴史から概観し、ERT が注目を集める契機となった 2001 年の経済危機、さらに同年 12 月に起こった民衆蜂起について述べる。第二章では、ERT 運動とは具体的にどのような取り組みであり、どこに意義があるのかを考察する。第三章では主な ERT の事例を挙げる。おわりに、この ERT という取り組みを通して見えてくるもの、つまり既存の資本家と賃金労働者という枠組みの外における生産活動の可能性を考える。

ERT 運動を支える基盤は「連帯」という言葉で表すことができるように思う。運動を通して、新自由主義によって分断された社会は再びつなぎ直されていく。そこには労働者同士の連帯、地域との連帯、他の社会運動との連帯、国を越えた運動の連帯があった。その中で労働者たちは自分たちの尊厳や誇りを回復していった。既存の資本主義という枠組みは、私たちの思考をも規定する。そこから脱却することで、ERT 運動は新たな政治的・経済的空間を社会に創り出したのである。新自由主義政策のひずみが日本でも着実に現れ始めている今、私たちは彼らに学ぶことができるはずである。

【主要参考文献】

廣瀬純(2006)『闘争の最小回路－南米に学ぶ変革のレッスン』人文書院

Programa Facultad Abierta, Secretaría de Extensión Universitaria Facultad de Filosofía y Letras, Universidad de Buenos Aires(2004)'Las empresas recuperadas en la Argentina' ,Guía de Empresas Recuperadas(http://www.guiarecuperadas.com.ar/)